

2005年度研究室活動記録

2005年度講義内容一覧

【比較成人教育論Ⅰ】 担当：教授・佐藤一子

宮原誠一教育論の全体像を探ることを目的とし、教育本質論、社会教育論、教育計画論、青年期教育論、生産主義教育論等、基本的な論をピックアップして、これらについての内容理解を深めることを軸に報告・議論がなされた。文献としては、『宮原誠一教育論集』（全七巻）を中心に使用した。

【比較成人教育論Ⅱ】 担当：教授・佐藤一子

前期に引き続き、宮原誠一教育論の検討を進めた。後期は宮原教育論を今日的に検証することを目的として、参加者各人の関心・研究テーマにひきつけて報告・議論がおこなわれた。テーマは、前期に検討した基本論からPTA論といった各論まで多岐にわたった。年間を通じて、修士のみならず博士課程の参加者も多く、充実した報告・議論がなされた。

【社会教育基礎論】 担当：助教授・鈴木眞理

生涯学習・社会教育の研究を行う上で基礎となる文献の検討を行った。特に、社会教育の概念、原理、理論や、社会教育に関わる行政・制度のあり方や理念などについての論文を重点的に選び、「社会教育」がどのように理解されてきており、あるいはどのように捉えるべきかを検討した。

【社会教育計画論】 担当：助教授・鈴木眞理

「現代社会論と生涯学習・社会教育論の接点」をテーマに戦後日本の大衆論、市民論、青年・若者論、世代論などを検討した。ゼミの中では、各時代の施策や議論と人々のあり方の関連や、それをどのように捉えるかが活発に議論された。

【社会教育学基礎理論Ⅰ】 担当：非常勤講師・渋谷英章

学社融合に関するプログラム事例を通して、学社連携との違いを検討した。部活動の支援、各種社会教育施設や複合施設での取り組み、海外の動向など、参加者の関心に基づいた事例報告を行い、学社融合を推進あるいは阻害する要因について議論が交わされた。

【社会教育学基礎理論Ⅱ】 担当：非常勤講師・辻浩

『住民参加型福祉と生涯学習』（辻浩・ミネルヴァ書房）をテキストにして、「社会教育と福祉」というテーマに関して様々な観点からの検討を行った。まず、参加者がテキストへのコメントを行い、それに対して講師の側がいくつかのテーマを設定し、研究方法やその背景などについて議論を深めるというユニークな形で講義が進められた。

【生涯学習論論文指導】 担当：教授・佐藤一子

主として修士論文・博士論文の構想検討がゼミ形式でおこなわれた。4月にはM2の、9月にM1の修士論文執筆予定者の報告に基づき、問題意識の明確化を中心とした検討がなされた。博士論文構想の検討も多くなされた。また、個別指導形式で、修士論文、博士論文、紀要論文等の検討がおこなわれた。

【社会教育学論文指導】 担当：助教授・鈴木眞理

例年同様に、ゼミ形式を中心として、論文執筆指導が行われた。修士論文執筆者に対しては、論文の構想をゼミで検討した。他には、ゼミ参加者あるいはそれ以外の筆者の論文を、生涯学習・社会教育関連の最新の年報・紀要等に掲載されたものの中から取り上げて検討した。

【児童福祉・学校外教育論論文指導】 担当：客員教授・増山均

ゼミ形式で、参加者が自らの博士論文・修士論文の構想を報告し、議論を行った。子育て支援の実践に関する議論や、児童館・学童保育などの施設に関する議論など、児童福祉に関するもののほか、職業教育論などの報告もなされ、幅広いテーマの検討がなされた。

学位論文

（修士論文 2005年3月）

青山鉄兵「戦後社会教育論における集団の位置—集団における人間形成分析のための基礎的研究—」

川口時世「博物館ボランティアの養成・研修に関する考察」

李瑜眞「成人教育プログラム開発に関する研究—大学継続教育への適用を中心に—」